

事例紹介「山本有三記念館」

市有形文化財である建物の保存と活用を図りつつ、
有三の生涯と作品を広く紹介する施設として公開・運営

施設分類：博物館等

住所：三鷹市下連雀2-12-27

構造等：木造、鉄筋コンクリート造（地上2、地下1）

建築年：大正15年（S60改修、H7年内装・外構工事ほか、H30リニューアル）

敷地面積：2,387.34㎡

用途地域：第一種低層住居専用地域

所有：三鷹市

運営：指定管理

【開館時間】午前9時30分～午後5時/入館料300円※公園は無料



維持管理経費1,396万円

使用料等収入236万円

利用者数 13,024人

(H27年度)



■ 講堂は公開が行っておりません。



北側外観



バルコニーからの庭



和室書斎復元



イングルヌック



食堂



旧長女の部屋

山本有三記念館のこれまで

- 大正15（1926）年 ● 清田龍之介（当時商社役員）の住宅として完成（設計者不明）
- 昭和11（1936）年 ● 山本有三が土地とともに自邸として購入、家族7人で吉祥寺から移り住む
- 昭和17（1942）年 — 邸宅の一部で蔵書を開放し「ミタカ少国民文庫」開設
- 昭和21（1946）年 ● GHQによって接收される
- 昭和31（1956）年 ● 接收解除後、山本有三が土地と建物を東京都に寄付
- 昭和32（1957）年 — 東京都立教育研究所三鷹分室「有三青少年文庫」開設
- 昭和60（1985）年 ● 東京都から三鷹市へ移管
「三鷹市有三青少年文庫へ」
- 平成6（1994）年 ● 三鷹市有形文化財に指定
- 平成8（1996）年 — 「三鷹市山本有三記念館」開設

↑
有三が住んでいた10年間
↓



山本有三（本名・勇造）

1887(明治20)年、栃木県下都賀郡栃木町（現・栃木市）生まれ、東京帝大独文科卒。大正期半ばに劇作家として出発、大正末期に小説の世界に進出し、「波」「女の一生」や国民的作品の「路傍の石」を執筆するとともに、先駆的な子ども向けの教養書シリーズ「日本少国民文庫」の編纂も手掛ける。1974(昭和49)年に湯河原にて86歳で亡くなる。